イセエビの産卵期および初期稚エビ調査（抄録）

小島　博・石田陽司・山添喜教

イセエビの大規模増殖場の造成場所の選定に当たって徳島県牟岐町，海南町，海部町および宍喰町地先においてイセエビに関する調査を実施した。イセエビの産卵期調査には，牟岐町地先の通称シモノシャクシの投石区域および宍喰町竹ガ島において禁漁期間中の刺網調査（6月27日から9月11日の間に6回調査）の際に得られたイセエビの頭胸甲長，雌雄判別，雌の抱卵状況の資料を用いた。また，プエルルス幼生および初期稚エビについては，各町の地先においてコレクター採集（ちぬ籠にキンランを10～15本詰めたものをコレクターとした）を7月上旬から9月上旬にかけて行うと同時に，10月23・24日に潜水により採集および観察した。

禁漁期間中の刺網調査により91個体のイセエビを採集した。雌雄比は1：3.3（雌21個体，雄70個体）であった。雌の抱卵率は7月下旬に高く，8月下旬に低下したことからこの間に産卵盛期があると推定した。また，今回の調査において抱卵していた最小雌は頭胸甲長43mm，体重85gであった。

コレクター採集では宍喰町地先において7月上中旬にプエルルス1個体および第1期稚エビ2個体を採集した。潜水採集ではプエルルス6個体および初期稚エビ19個体を採集した。採集水深は2～12mで，多くは岩盤や転石表面に開口する小孔から発見され，その近くにはカジメが繁茂していた。

イセエビ大規模増殖場のいずれの調査水域においても，その近くにプエルルスの着底場，稚エビの生活場のあることが確認された。

なお，本報告の詳細は水産庁編「平成2年度大規模増殖場調査事業報告書」を参照されたい。